

消費税の歴史

首相	年月	
大平正芳	1979年1月	財政再建のため「一般消費税」導入を閣議決定。同年10月、導入断念を表明したが、大幅に議席減。
中曽根康弘	1987年2月	売上税法案を国会に提出。しかし、同年5月に廃案。
竹下 登	1988年12月	消費税法成立。
	1989年4月	消費税法を施行。税率は3%。その直後、竹下首相は退陣表明、同年6月に辞任。
細川護熙	1994年2月	消費税を廃止し、税率7%の国民福祉税の構想を発表。しかし、発表翌日に撤回。
村山富市	1994年11月	消費税率を3%から4%に引き上げ、さらに地方消費税1%を加える税制改革関連法が成立。
橋本龍太郎	1997年4月	消費税率を5%に引き上げ。
鳩山由紀夫	2008年9月	「消費税率は4年間上げない」とするマニフェストで民主党が総選挙で勝利、政権交代を実現。
菅直人	2010年6月	参院選直前に「消費税10%」を打ち出し、選挙に惨敗。
野田佳彦	2012年6月	消費税率を2014年に8%、15年に10%に引き上げる法案を提出。8月10日、参院本会議で可決成立。
安倍晋三	2013年10月	2014年4月から消費税8%導入を宣言。

消費税の税収 10兆1,990億円(歳入に占める割合11.0%)

※財務省HPより